NIE実践報告

1．タイトル：☆新聞を活用した環境教育

2．学校名

清風高等学校(大阪府、私立)

3．実践者名（代表者名）

鎌田　隆

4．学年

第1学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

特別活動　122人

6．単元（本時の学習課題）名

生物部の研究を手がかりに考える環境問題の本質

7．目標（狙い）

ごく身近なところで起こっている生物種の絶滅や生態系の破壊について認識を深めるとともに、新聞記事の内容とその取材対象の実際を比較させ、その異同を確認させる。

8．評価の視点

環境問題に対する自分の考え方を的確に表現し、かつ、他者の異なる意見に耳を傾け、対話を行えるか否か。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

これまでのNIE学習の仕上げとして特別講座とフィールドワークを実施。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

生物部の研究・調査を紹介した新聞記事などを配布し、身近なところで起こっている生物種の絶滅や生態系の破壊についての認識を促した。さらに、生物部の協力を得て、実際に顧問や部員の人たちに研究内容の解説をしてもらう講座を開催した。続けて新聞記事で紹介されている調査・研究の現場に赴くというフィールドワークを企画した。
第一部
(1)清風高校生物部による内閣総理大臣賞受賞研究内容の発表「バラタナゴはドブガイ模型に産卵するかpart2」
(2)生物部顧問による特別講義「生態系はいかにして守られてきたか」(1.5時間)
第二部
(1)八尾市高安地区にあるニッポンバラタナゴ保護池の見学(2)保護池周辺の里山の散策(3.5時間)
⇒雨天のため中止

11．児童・生徒の反応、感想・意見

強い問題意識を抱いて聴講し、意見を述べていた。同世代の生物部の生徒たちの創意工夫に触発された様子であった。

12．成果と課題

日本学生科学賞を受賞した生物部の優れた研究の内容について、新聞記事と特別講座を通して伝えることができた。しかし、環境問題の本質について、十分な議論が行えたとは言えない。また、特別講座は希望者参加方式で実施したが、参加者が数人に留まった。このことは、新聞を活用した1・2学期の学習が、うまく3学期の特別講座に結びついたとは言えないことを物語っている。